

1. ユダヤよりもずっと東、ちょうどペルシャのあたりに住んでいたこの三人は、星の観測をする博士でした。寒い夜も、毎日星を見て、その動きを細かく調べていたのです。
2. そしてある時、ものすごく明るく輝く星を発見したのです！
3. 博士たちは、すぐにその星のことを調べてみました。そうしたら、聖書の中にその答えがあるのを見つけました。そこには、救い主がお生まれになるということが記されていたのです。  
「こりゃ大変だ！ 救い主がお生まれになるっていうんだから、すぐに会いに行かなきゃ。さあ、出発だっ！！」
4. こうして博士たちは、“黄金” “乳香” “没薬” など、とっても高価な贈り物を持って、はるばるユダヤのベツレヘムに向かって出発したのです。
5. 博士たちはユダヤの国に入ると、まずはユダヤの王ヘロデに会いました。

ヘロデ「なんじゃお前たち、何か用か？」

博士達「王としてお生まれになった方は、どこにおられるのですか？ 私たちは東のほうで輝く星を見たんです。だから私たちは、はるばる旅をして、そのお方を礼拝しに来たのです」

6. ヘロデ王は顔では何とか笑顔をつくらつつも、実は冷や汗をかきながら・・・

「そ、そ、そうか・・・、王が生まれたのかい・・・、それじゃ、わしも後から拝みに行くからな。その子を見つけることが出来たら、ぜひわしにも知らせてくれよ。たのんだぞ・・・。」

何でヘロデ王が冷や汗をかいていたかって？ それは、ヘロデは自分の他に王様が生まれるって聞いたから、怖くなっちゃったんだね。自分よりも偉い王様が出てきたら困っちゃうって、そう思ったんだ。イエス様がお生まれになるって、そういう意味じゃないのにな。でもね、ヘロデ王は、自分のことしか考えていなかったから、こういうことしか思うことが出来なかったんだね。  
そしてヘロデ王は・・・

7. 「許せん、ぜったいに許せんっ！ ベツレヘムに生まれた男の子は、皆殺しじゃ～!! わしに代わって王になるヤツなど、絶対に許すわけにはいかないのじゃ～～～～っ！」

と、ヘロデはこういう恐ろしい罪を犯してしまいました。・・・一方、博士たちはというと・・・

8. そう、幼いイエス様を礼拝することが出来たんです！ 博士たちは長い長い旅を続けてきました。そして、高価な贈り物を持ってきました。そうやって、苦勞してここまでやって来た博士たちでした。だから神様は博士たちに、最高の祝福、すばらしい恵みをくださったんだね。お生まれになったイエス様を見る事が出来たなんて、ホントにすごいことだよ。
9. さあ、ここには二種類の人が出てきましたね。イエス様を心から礼拝した人、それとは逆に、自分のことだけしか考えないで、恐ろしい罪を犯した人・・・。そんな二種類の人が登場したよね。でもね、イエス様がお生まれになったっていうニュースは、博士たちにも、そしてヘロデ王にも、同じように知らされたんだよね。でも、博士たちとヘロデ王とは、全然ちがった態度をしたんだね。神様の恵みは同じように知らされたのにな。
10. 「『ユダの地、ベツレヘム。あなたはユダを治める者たちの中で、決して一番小さくはない。わたしの民イスラエルを治める支配者が、あなたから出るのだから。』」 マタイ2：6

救い主イエス様がお生まれになるというニュースは、博士にも、そしてヘロデ王にも、知らされたことでした。そして博士たちは、神様を第一として、イエス様を礼拝することを選びました。でもヘロデ王は、神様よりも自分を一番にして、恐ろしい罪を犯してしまいました。

11. さあ、君ならどちらの生き方を選ぶかな？ よ～っく考えてみよう～！！

おしまい。